

Start & Challenge

母親同士がカフェでお話し会

多忙で自分のことを後回しにしがちな母親が自分だけの時間を楽しめる場を作ろうと今年4月に発足した市民グループ「つなぐ」(阿部奈津子代表)が、来年1月と2月に開催する発達障がいなどで支援が必要な子の母親を対象にしたお話し会「狛江でFikaぷら」の参加者を募集している。



ワークショップ

Fikaはスウェーデン語のティータイム習慣の意味で、同じような立場の母親同士がリラックスして話したり、仲間作りができる場として、市民公益活動事業補助金スタート補助金を受けて10月に初めて開催し好評だった。市内のカフェを会場に少人数で行うため、日程等は参加者と相談して決定する。

同会では子育て中の女性向けのワークショップや講座も催しており、1月に「重ね煮」料理体験、2月に便秘解消セルフケア講座を行う予定。

イベントの内容、日程・申し込み方法など詳細は同会インスタグラム(二次元コード→)で確認できる。

問い合わせは公式LINE@474kylqh。



市民公益活動事業補助金を1月8日まで受け付け先駆的、特徴的な市民団体の事業を支援

狛江市では、令和7年度に市内で市民公益活動を行う団体の成長・発展を図ることを目的とした市民公益活動事業補助金の応募を1月8日迄まで受け付けている。これまで4月から5月にかけて補助金の募集を行ってきたが、4月から活動を始める事業を対象を拡大するため、募集時期を繰り上げることにした。

対象は、市民公益活動を行う団体が市内で行う先駆的で将来性のある、または市民ニーズや地域性に適合した特徴ある事業(市の他の補助金等の財政支援の対象となる事業は除く)で、スタート補助金(令和6年4月1日時点で設立3年以内の団体向け、上限5万円、総額20万円)とチャレンジ補助金(活動の基盤がある程度できており、ステップアップを支援、上限20万円、総額140万円)の2種類がある。

2月15日(日)に市役所で行われる公開プレゼンテーションで交付する団体を選考する(スタート補助金申請団体は書類選考のみ)。

応募方法や対象団体、事業など詳しくは市ホームページを参照。

問い合わせ☎3430-1111 狛江市政策室 市民協働推進担当。ホームページの二次元コード→



安全でにぎわう喜多見駅に市民が構想案や意見発表

小田急線喜多見駅付近の通行の安全性やにぎわいについて考える「第1回喜多見駅周辺まちづくり市民フォーラム」が11月9日(日)に岩戸地域センターで開かれ、市民45人が参加した。

主催した喜多見駅狛江市側改札口周辺まちづくり協議会(利光昭彦会長)は平成7年から有志が集まり、同駅周辺の都市計画道路の事業認可に伴う歩行空間の安全確保、にぎわいの創出、防災公園設置、小田急線高架化前にあった同駅狛江側臨時改札口復活を求める活動を続け、地区まちづくり協議会に昨年認定された。

特に同駅近くにある学校の通学や買い物の時間帯は混雑し事故の恐れがあるため、同会では改善に向けた研究や調査、アンケート、

署名活動を行ってきた。

この日は、同会の構想案などを発表。参加者から活発な質問や意見が出された。同会では来年3月までに市へ「地区まちづくり構想」を提出し実現に取り組む予定だ。

マラソンフェスティバル 22日に多摩川堤防で

「狛江マラソンフェスティバル2024」(狛江マラソンフェスティバル実行委員会主催)が22日(日)に狛江市多摩川緑地公園グランドと調布市京王閣付近までの多摩川堤防で行われる。

コロナ禍の令和2年から4年に市内で4回開催された「狛江多摩川グリーンマラソン」の主催者らが、「狛江の魅力発信する観光マラソン」として会場や名称を変更し昨年初めて実施した。競技種目と参加費はハーフマラソン5,000円、10km4,500円、親子ペア(1km

2人1組2,500円、混合ハーフリレーマラソン(男女2~10人で1kmコース21周)1チーム15,000円、小学生リレーマラソン(500m10周)1チーム5,000円の5種目。

ハーフと10kmには、狛江高校出身で元女子1万m記録保持者の片岡純子さんがペースメーカーとして参加の予定。参加申し込みは9日(日)までにホームページ(二次元コード→)から。

問い合わせ@info@nr-project.com 狛江マラソンフェスティバル事務局。



老人ホームでハロウィーン 子どもと高齢者が交流

介護付き有料老人ホーム「SOMPOケア ラヴィーレ狛江」(西野川3-4-3)で10月26日(日)子ども食堂が開かれ、子ども8人と保護者ら大人5人が参加した。ハロ

Shop & Service Guide ...41

いらっしやいませ

肉の白井

(有)肉の白井は「いつも良い肉、うまい肉」をモットーに牛、豚、鶏肉とハム・ソーセージ・ベーコンなど肉の加工品、コロッケ、トンカツなどの揚げ物、焼き豚などの総菜を販売している。また、肉を主菜にした日替わり弁当も好評だ。

松阪牛をはじめ、鹿児島県の黒毛和牛や黒豚、鶏肉の名古屋コーチンなど、国内産の高級ブランド肉を扱っており、手頃な価格で提供している。店頭ショーケースには肉を部位ごとに並べるほか、スネ、テール、タンなどの注文にも応じている。

開店当初から人気の手作りコロッケなどの揚げ物は

国産ブランド肉を手頃な価格で提供 手作りの総菜や日替わり弁当が人気



白井俊太郎さん(右)と妻の信子さん

☎3489-0674 中和泉1-2-10 営業時間=午前10時~午後7時 日曜・祝日休み



バルーンアートを楽しむ

ウィーンの仮装をした子どもたちは昼食前の高齢者に水を渡すなどホームの仕事を体験し、ハロウィーン用に飾られた1階サロンでカレーやケーキを食べた後、バルーンで弓矢を作って遊び、高齢者と交流を深めていた。

同所では、介護の仕事への理解と異世代交流や地域交流を深めよ



午前中に売り切れることも多い。夕方は注文を受けてから揚げるため、仕事帰りなどに立ち寄る人も多いという。このほか、ギョーザ、ポテトやニンジン、春雨のサラダに加え、最近では日替わり弁当に使っているひじき煮、切り干し大根、きんぴらゴボウなど和惣菜も人気だ。

惣菜部門は、以前は店主の白井俊太郎さん(55)の母・洋子さんが担当していたが、現在は妻の信子さんが受け継ぎ、午前5時頃から毎日、弁当約80食と総菜を作って用意、11時から販売しているが、早々に売り切れることも多いという。

同店は昭和21年創業の市内で2番目に古い精肉店で、50年ほど前には当時の狛江では珍しかった高級牛肉を使ったしゃぶしゃぶ屋を開業し繁盛した。61年に狛江通りの拡幅にともなって現在のビルを建てるとともに、しゃぶしゃぶ屋を閉じて精肉店として再スタートした。この少し前からスーパーマーケットが進出したこともあり、価格競争ではかなわないと考え、安心・安全で品質の高い商品を提供する方針に転換、国産ブランド肉を中心に販売するようにしたという。

俊太郎さんは3代目の店主で、平成3年に父が倒れたため会社勤めをやめて店を継いだ。仕入れた枝肉を販売用に加工するのは主に俊太郎さんで、店での販売以外に市内の保育園、小学校、病院などの業務用のほか、市内外の飲食店に肉を配達している。

12月はクリスマス用ローストチキンやお節用の焼き豚などの注文が増える繁忙期を迎えるが、同店ではすべて手作りのため、正月用の肉なども含めて早めの予約を呼びかけている。

俊太郎さんは今年、狛江市商工会の副会長に就任、地域経済の発展にも力を注いでいる。

うと昨年5月から「子ども食堂」を開催し、参加する子どもだけでなく、入所している高齢者にも好評だ。

商店街

狛江団地商店会◆狛江団地商店会創立56周年記念第17弾感謝祭

感謝祭:1日(日)~31日(月)。期間中に商店会加盟の各店で2,000円以上お買い上げのお客さま(各店先着180人)にボックスティッシュ3箱プレゼント。問い合わせ☎3489-6519 コマエ工房。

御台橋商栄会◆年末サンクスセール

年末サンクスセールは9日(日)~23日(月)(三角くじがなくなり次第終了)。商店街加盟の各店で買い物500円ごとにその場で当たる三角くじが1枚引ける。景品は参加加盟店で使える5,000円・2,000円・500円分の金券及び現金100円。問い合わせ☎3488-2352 丸仲。

【訂正】『わっこ』11月号の「オープンスクール」の「わたしの緑野小」の記事中、「松村海斗」とあるのは、正しくは「村松海斗さん」です。でお詫びして訂正します。(編集部)